

新年を迎えて

年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。今日、我が国の教育を取り巻く状況が著しく変化する中、教育委員会制度の在り方をはじめ、様々な教育改革が進められております。京都府教育委員会におきましても、「京都府教育振興プラン」の策定から四年が経過することから、これまでの取組の成果と課題の検証と見直しを進め、教育行政のより一層の充実を目指す所存であります。

さて、いよいよ本年四月には、二十九年ぶりの新設校となる「府立清明高等学校」、そして、府内北部地域初となる中高一貫校「府立福知山高等学校附属中学校」が開校いたしました。府立高校の魅力づくりについては、「府立高校特色化推進プラン」に基づき、各校が実践する多彩な取組を支援しているところですが、昨年度から新たに導入した入試制度も、今年で二年目を迎えることから、今後は、入試制度のより一層の定着を図るほか、子どもたちが持てる力を十分に発揮し、希望する進路の実現がかなうよう、しっかりと取り組んで参ります。また、昨年度は、新たに給付型の奨学金制度を設けましたが、今後も引き続き、高校生が安心して修学できる環境づくりに努めて参ります。

次に、安心・安全な教育環境づくりとして、いじめは決して許されない行為であることから、昨年四月には「京都府いじめ防止基本方針」を策定し、あらゆる関係機関と連携した防止のための取組を進めているところですが、昨年度の京都府のいじめ認知件数は全国一位となりましたが、これは、どんな些細ないじめも見逃さず、早期にいじめに対応するようきめ細かく把握したためであり、むしろ前向きに捉えております。今後は、「こころの教育」などを通して子どもたちの人権意識を高めるとともに、京都式の「ふるまいの教育」として、法やルールを学び実生活で実践する取組を推進するなど、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け、全力を挙げて取り組んで参ります。

また、特別支援教育の充実としては、教育支援のみならず、就労支援において、企業とのマッチング向上や就労後の職場定着など、生徒が安心して生活を送ることができると、取組を進めているところですが、今後は、南部地域の特別支援学校の児童生徒増に対応するため、新設も視野に入れた抜本的対応策を検討するなど、教育条件の向上に努めて参ります。

さて、近年、我が国の子どもたちの貧困率は上昇傾向にあり、教育を受ける機会の均等を図り、子どもへの貧困対策を総合的に推進することが重要になってきております。昨年八月には、国において「子どもの貧困対策に関する大綱」が策定されましたが、京都府教育委員会といたしまして、全ての子どもが将来に夢や希望を持って成長していくけるよう、具体的な施策を実施して参る所存であります。

また、これからの国際化社会に対応するため、語学力のみならず、主体性や多様な文化への理解など、様々な素養を兼ね備えた人材を育てることをテーマとして策定した「グローバル人材育成推進プラン」のほか、豊かな人間性の育成を目指して、新たな「京都府子ども読書活動推進計画（第三次推進計画）」を策定するなど、諸課題について、継続的に取り組む必要があると考えております。

今後とも、市町（組合）教育委員会をはじめ、関係機関とより一層緊密に連携し、府民の皆様の御期待に応えられる教育を着実に推進するとともに、子どもたちが、次代の力強い担い手として健やかに成長していくよう、全力を尽くして参ります。結び、京都府の教育の更なる発展に向けまして、一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十七年

元旦

京都府教育委員会
委員長 畑 正高